

先憂後楽



『先憂後楽』とは、「国の大事については、世の人々に先立って憂い、そして国がよく治まり人民が楽しんでいるのを見届けてから初めて自分も楽しめ」という意味です。
(題字揮毫 林田悠紀夫先生)

2004.1 第18回 府政報告 多賀久雄事務所
〒626-0008 京都府宮津市万年895-8 TEL(0772)22-6335 FAX(0772)22-6335
<http://www.tango.or.jp/taga/> E-mail : taga@tango.or.jp

みんなで創ろう! 輝くふるさと

寒中お見舞い申し上げますとともに、皆様にとりまして、本年が良い年でありますようお祈り申し上げます。

さて、景気にも少し明るさが見えてきたようですが、私はこの国の行く末に少なからず不安を感じております。

この国は、平気で社員の首を切る経営者や会社を転々とする人を、尊敬する国ではなかったはずです。昔に戻れということではありませんが、日本的価値の素晴らしさをもう一度見直す中にしか、この国が進む道は開けてこないと思っております。

正月早々暗い挨拶になったことをお詫びしますが、皆さんの中にも同じような思いの方もおられると存じます。今年は、こうした思いを、私なりにどんどん伝えていきたいと考えております。

いよいよ寒さも厳しくなってきました折ですので、お身体ご自愛下さいますようお祈りいたします。

京都府議会議員 多賀久雄



SARS対策激励

.....

[[[[[ガンバレ警察官]]]]]

昭和の時代には、140万±20万件で推移していた刑法犯の認知件数が、平成10年には200万件を突破し、平成14年には285万3,739件と、治安は大変悪化しており、当面の治安対策として、平成14年から数年かけて警察官が2万人増員される計画となっております。京都府は、人口に対する警察官配置の割合が全国で二番目に高いため、多くの増員は難しいとは思いますが、交番警察官がない交番が少しでもなくなるよう、しっかり取り組んでいきたいと考えております。



年末警戒激励

9月定例会ひろいがき

9月定例議会において、平成16年4月1日から中郡峰山町、同郡大宮町、竹野郡網野町、同郡丹後町、同郡弥栄町及び熊野郡久美浜町を廃し、その区域を持って京丹後市を設置するという議案を可決しました。その審議にあたり、付託を受けた総務委員会では、京都府議会としては初めてとなる丸山康人参考人（四日市大学教授）を招致しました。その概要を報告します。

参考人の意見

《今なぜ市町村合併なのか》

合併を担当している職員の方々の話を聞くと、小規模な市町村になればなるほど、国の方で進められている「地方交付税の見直し」だとか「補助金の削減」、それから今後進められるであろう「税源移譲」など、いわゆる三位一体の改革というようなことから、もはや合併をせざるを得ないからするんだということをよく耳にするわけでございます。

極めて受け身、消極的なスタンスからこの合併をとらえている自治体が多いというのが正直な感想でございます。

私の方もいろいろなかかわり方の中で、受け身でとらえるのではなく、むしろ積極的、主体的にとらえることが必要であり、自治力を強化するための市町村合併をしていただきたいということを言わせていただいております。

《自治力の強化とは》

デモクラシーの拡充 合併して住民の声が届きにくくなるようであれば、住民にとって合併はしない方がよかったという結果になるのだらうと思います。だから、この合併を契機に行政側は情報提供をしっかりと行い、行政に関する関心を持っていただいて、それで、参加しやすい仕組みをいかにつくっていくかということです。そのためには、一応、国の制度として用意されている、地域審議会をしっかりと設置しているかどうか一つのチェックポイントですが、ただ、地域審議会というのは、単に新市の諮問機関にとどまっているわけでございますので、今、国の方で法制化の検討が進められております「住民参加の拠点となり得るような地域自治組織」を設けるというようなことも、今後、必要があるだらうと考えております。

行財政基盤の確立 これまでの日本の行政は、「地域の均衡ある発展を目指して」と、いわゆるナショナル・ミニマムの実現、全国どこに住んでいても公平・平等にサービスが提供されるように、法制度的には整備されているわけでございます。現在進められている三位一体の改革は、課税客体のたくさんあるようなところにとっては非常に豊かになるけれども、一方で、税源移譲をされてもどう考えても税収が上ってこないような地域にとっては、むしろ厳しい時代を迎えるわけです。こういったことは、ナショナル・ミニマムから、地域の適正な行政水準は自から決定する、いわゆるローカル・オプティマムの時代に入ってくると、よく言われております。これからは、うちの自治体にとってはこのサービスは要らないぞという取捨選択をしながら、自分の身の丈にあったサービスを提供していくことが、必要になってくるだらうと考えます。

行政能力のアップ 自治体は例えば、町から市になり、それなりの権限が移譲されてくるわけです。そうすると、特に、福祉関係の専門家とか土木関係の専門家といったスタッフの拡充が、当然、必要になってくるわけです。とはいえ、実を言うと、それぞれの町ないし町村のスタッフが集まっても、直ちに行政能力がアップすることなどは、基本的にはあり得ないわけです。むしろ、当初は混乱を来たすことの方が多く、私は思います。かつて、私は、大学院生時代に、筑波市の合併後のフォローアップ調査に入ったことがあります。職員同士が相当混乱します。特に、大きな町と村との合併になりますと、精神的に村の方々は参ってしまうというようなことも相当出てまいります。そういった意味で、こういった職員の方々の専門能力をアップする仕組み、ないしは新たに採用できる仕組み、それから研修制度をきちんと用意してあるかどうか、そういったことに対する配慮ができていくかどうか。その仕組みをしっかりとつくる必要があると思っております。

参考人への質疑

Q 自治意識の高揚についての御意見を

A 自治意識というのは別に市や町ではなくて、まさに自分のコミュニティーなわけです。例えば、イギリスなんかもそうですけれども、パリッシュというのが住民自治の拠点なわけです。団体自治のような広域的な行政については、市がどんどんやってくれればいい。だから大きければ大きいほどいいというように。これからは、住民自治的なものは本当に身近なところに、一方で、広域的な行政については、もう合併していただいてもいいから、どんどん広域的に効率的にやってくれよというような二極化がでてくるのだろうというふうに思っています。

Q 住民投票条例案が丹後各町で否決をされたが、他の地区においては、

A 例えば三重県においても、住民投票条例によって合併をしないと選んだ地域もございます。それを見ていると、1つは、住民投票で賛成派と反対派が物すごい勢いで地域の中、特に農村地域等を駆けずり回りまして、その後の関係の修復に非常に困っているというようなこともございます。私も常々思うことですが、合併における住民投票は、やればいいというものではないと思っています。例えば、議会がとても混乱をしまして判断不能である、ないしは議会と執行部の意見が対立的になってしまっていて、どうにもならんというようなときに、この住民投票を行うことはやむを得ないだろうとは思いますが、とりあえず住民の意向を聞くためだけに住民投票をやるというのは、先ほど言ったように、後にいろいろな禍根を残していくというか、そういった気がします。あくまでも、議員の方々は選挙によって選ばれて、そしてここで判断をして、結果が過半数を超えている以上は、これは賢明な判断であろうと私自身は思っております。

Q 合併のメリット、デメリットというのは、

A 何の努力もしなくて、合併したから突然メリットが出てくることなんて、ほとんどないと思います。合併を契機に何に取り組んだかによって、例えば、専門性を高めるといっても、合併したからといって突然専門性や効率性が上がるわけではないわけですから、どういう仕掛けをするか、また、住民とともにやれるかということが重要なことだと思います。

11月定例会ひろいがき

11月定例会では一般質問に立ち、地方の財源面での自立や仕事のあり方に対する知事の覚悟、人工ゼオライト実験など環境を守るための地道な取組みに寄せる知事の思い、教育委員長の道徳教育観(京都府では、京都の英知を結集して「心の教科書」を作ることになっております)などについて、再質問も含め鋭く迫りました。

(詳細については、ホームページのほか、貸し出し用ビデオをご覧ください)



11月定例会

《自民党だより》

参議院京都選挙区の立候補予定者

二之湯 智 京都市会議員に決定!!

うれしい出来事

去る10月23日に横浜で開催されました第16回全国女性消防操法大会におきまして、野田川町女性消防隊が、京都府の代表としては初めての入賞となる9位に輝きました。彼女たちはいずれも公募に応じた方々で、言うならば素人で編成された消防隊であります。公募に応じるという情熱がそのまま志気の高揚として現れ、厳しい練習に耐えることができ、この快挙となったと思います。本当におめでとうございました。



全国女性操法大会出場者激励会（平成15年10月18日）

教育を憂う

教育基本法は、そのあり方について本年3月中央教育審議会から答申され、「天皇陛下から頂いた教育理念」でもなく、「占領軍が与えた教育理念」でもない、国民みんなが認知する教育理念とすべく、これから活発な議論がされていくところであります。日本の伝統・文化を尊重する心、国を愛し、家族を愛し、他者を思いやる心、公に奉ずる心が生まれ、道徳心、自律心に満ちた、立派な日本人が育成できる改正となるよう、私もしっかり取り組んでまいりたいと考えております。

心臓移植が必要な有加さんへ皆様からの愛の手を!!

宮津市小田宿野在住の小倉千明、真由美さんご夫妻の長女“有加さん”17才は現在大阪府吹田市にある国立循環器センターに、進行性の「拡張型心筋症」という病気で入院しています。

平成11年4月栗田中学入学時（12才）の校内検診で心電図異常が発覚。精密検査のため同年10月国立循環器センターに検査入院し、検査の結果、進行性の「拡張型心筋症」とわかりました。

この病気は現在心臓移植しか生存する手段がなく、ドナー（臓器提供者）を待ちましたが提供者が現れず、平成14年10月に病状が悪化し、補助人工心臓の装着を余儀なくされ現在に至っております。補助人工心臓装着後は一刻も早い心臓移植が必要とされています。このような状況にご両親として娘の命を救うには「国外での心臓移植に頼らざるを得ない」と海外へ行くことを決意致しました。幸いにも12月にアメリカのUCLA病院が2004年卒で受け入れてくれることになりましたが、アメリカでの移植には渡航費、移植手術費、滞在治療費等を含め多額の費用が必要になります。

そこで、私達は有加さんのご両親の友人・知人としてこの窮状を察し、何とか力になろうと「有加さんを救う会」を結成し近々に募金活動を開始することに致しました。

皆様の温かいご支援ご協力をよろしくお願い致します。

【問い合わせ先】

事務局 〒626-0052 宮津市小田宿野191-3
小田宿野公民館内
「有加さんを救う会」
代表 飯尾 毅・荒砂洋一
TEL0772-20-1005
FAX0772-22-6455

【振込口座】

京都北都信用金庫本店 普通預金 1063468

有加さんを救う会 代表 飯尾 毅

その他の金融機関の口座については救う会へお聞き下さい